

「低音デュオ」は、声の松平敬と、チューバの橋本晋哉による現代音楽ユニットであり、2006年に結成されました。彼らは声とチューバという特殊編成のための新作委嘱活動を始めとして、中世、ルネサンスの作品なども含む幅広い演奏活動を展開してきています。

このユニットが誕生した契機は、湯浅譲二のトランペットとバリトンのための作品、「天気予報所見」をチューバとバリトンによって演奏するためでした。この「天気予報所見」という作品は、感情を持たない天気予報というテキストを、泣いたり笑ったりしながら読むという要素を持つ作品です。しかし、この作品は響きの面白さがもたらす単純な違和感のみが取り上げられているのではなく、言語コミュニケーションに含まれる非言語的側面を音楽化するという大胆な試みも行われています。本企画では「天気予報所見」を題材の一つとした松平敬による「ことばと音楽」というワークショップを開催し、コンサートにおいてその実演を体験していただくことを目的の一つとしています。

また、蛇型の古楽器「セルパン」を題材にしたワークショップ「古楽器セルパンについて」も開催します。テレビ朝日「題名のない音楽会」において「絶滅危惧の楽器」として紹介されたように、セルパンは19世紀以降ほぼ起用されることがありませんでした。この古楽器に橋本晋哉がどのようにして新たな光を当て、21世紀という現在にセルパンを位置づけるのか。ワークショップとその実践としてのコンサートにご期待いただきたいと思います。

そして、コンサートでは、フランスと日本を中心に活躍中のアコースモニウム奏者でもある、作曲家・檜垣智也によるアコースモニウムと声とチューバのための新作が初演されます。アコースモニウムとは、スピーカーのために作られた電子音響音楽（テープ音楽、ミュージック・コンクレート、電子音楽など）をコンサートで発表するための多次元立体音響装置です。コンサート空間に自由に配置された多数のスピーカーをフェーダーによって操作することで、多様な音響空間を自由に表現することが可能となります。今回は山根明季子「水玉コレクションNo.12」も、アコースモニウム・ヴァージョンによって上演されます。



低音デュオ twitter @teion_duo
http://shinyahashimoto.net/teionduo/

松平 敬



愛媛県宇和島市生。東京芸術大学卒業。同大学院修了。2000年よりほぼ毎年ドイツのキュルテンで開催されたシュトックハウゼン講習会へ参加、シュトックハウゼン作品の作曲技法や正統的な演奏法について学ぶ。同講習会に於けるコンサートにも出演し、「ティアクライス」「7つの日の歌」「シュピラル」を作曲者の監修のもと演奏、2007年「シュピラル」の演奏に対してシュトックハウゼン賞を獲得する。これまで湯浅譲二、クセナキスなど全曲前衛作品ばかりによるリサイタル、シュベルト「冬の旅」とケージ「冬の音楽」・「ソング・ブックス」（同時演奏）を組み合わせた演奏会、全曲シェーンベルク作品によるリサイタルなどを開催、「音楽の友」誌上などで高い評価を得る。2007年にはケルンにおいて志田笙子、ジェルシらの作品を演奏し、その全内容がドイツ国内で放送される。2009年にはシュトックハウゼンの大作「私は空を散歩する」を日本初演。声楽家としての活動に加え、作曲、編曲、合唱指揮、「レコード芸術」誌への執筆なども行う。現在、文教大学、聖徳大学講師、日本声楽アカデミー会員、双子座三重奏団メンバー。2010年2月には、初めてのソロCD《MONO = POLI》を発売、平成22年度文化庁芸術祭レコード部門にて、優秀賞を受賞。13～21世紀の声楽アンサンブル作品を取めたこのアルバムのソプラノからバスまでの全声部（最大16声）は、多重録音によって一人の声のみで演奏されている。

twitter @takashi531
http://matsudaira-takashi.jp/

橋本 晋哉



1971年生まれ。フランス国立パリ高等音楽院（CNSM）チューバ科、同音楽院第3課程器楽科（チューバ科）、同音楽院第3課程室内楽科を修了。在仏中アンサンブル・イクトゥス、アンサンブル・アンテルコンタンポランなどの現代音楽アンサンブル、フランス国立管などのエキストラのほか、ジャック・ルポチエのシアター・ミュージック、フェスティバル・アゴラ、レゾナンス2003（IRCAM）への出演など主に現代音楽を中心として活動。2001年より「秋吉台の夏」現代音楽セミナーに講師として参加。2005年帰国後、サントリー音楽財団サマーフェスティバル2008及び2010、コンポーザム2009（ラッヘンマン「ハルモニカ」日本初演）などの音楽祭、東京オペラシティリサイタルシリーズ「B→C」、NHK-FM「名曲リサイタル」にソリストとして出演。他方古楽器のセルパンやクラシカル・バス・トロンボーンを用いて古楽の分野でも活動。2002年アヴァン・センヌ（フランス）において審査員全員一致で第1位受賞。同年第5回現代音楽演奏コンクール（日本現代音楽協会主催）第2位。2003年ガウデアムス国際現代音楽演奏コンクール（オランダ）特別賞（即興）受賞。洗足学園音楽大学非常勤講師。

twitter @bashunity
http://shinyahashimoto.net



京都芸術センター
〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2
TEL 075-213-1000 FAX 075-213-1004
http://www.kac.or.jp/
地下鉄烏丸線「四條駅」、阪急京都線「烏丸駅」
22番・24番出口より徒歩5分。
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



檜垣 智也 〈作曲・アコースモニウム演奏〉

1974年山口県生まれ、奈良県在住。1999年愛知県立芸術大学大学院修了。2002年から2005年にかけてフランス留学し、作曲とアコースモニウムの操作法を学ぶ。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクールをはじめ多数のコンクールと音楽祭に入賞・入選。INA/GRM（国営視聴覚研究所音楽研究グループ）や回路の詩神（La muse en circuit）などの委嘱で作品を制作し、Radio Franceなどからラジオ放送されている。2011年にCDアルバム「Mahoroba」を出版。2003年よりアコースモニウムの演奏家としてフランスのMOTUSとFUTURAに所属。ラ・ベニシュ・オペラ（パリ）、オーディトリウム・サンジェルマン（INA/GRM、パリ）、瀬戸内国際芸術祭2010（香川）、全興寺（大阪）、アクロス福岡、奈良国立博物館、寒梅館（京都）など単独公演多数。今日まで九州大学大学院、愛知県立芸術大学大学院、大阪芸術大学、同志社女子大学、名古屋芸術大学で、海外ではFUTURA、MOTUSなどで講師を務める。

twitter @higakito
http://musicircus.net/higaki/